

第6学年4組 体育学習指導案

令和 5年11月10日(木) 5校時
場 所 体 育 館
児童数 男子19名女子15名計34名
授業者 小 野 田 峻 (T1)
神 宮 司 大 (T2)

1 単元名 「 病気の予防 」 (保健)

2 単元について

本単元は、学習指導要領の次の内容に位置付けられている。

G 保健
(3) 病気の予防
(オ) 地域では、保健に関わる様々な活動が行われていること。

本単元では、病気の予防に関する課題を見付け、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、それを表現できるようにすることを目標としている。このため、地域において保健に関わる様々な活動が行われていることなどの知識と病気の予防に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。本単元では人々の病気を予防するために、保健所や保健センターなどでは、健康な生活習慣に関わる情報提供や予防接種などの活動が行われていることを理解できるようにする。

3 児童の実態

(1) 知識及び技能

3年時では、健康の状態には主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていること、また、健康を保持増進するには、運動、食事、休養および睡眠の調和のとれた生活など1日の生活の仕方が深く関わっていること、体を清潔に保つことや生活環境を整えることが必要であることを理解した。4年時では、体が年齢に伴って変化すること、体の発育・発達には個人差があること、思春期になると体に変化が起こり、異性への関心も芽生えること、体の発育・発達には適切な運動、食事、休養、および睡眠が必要であることを理解してきた。5年時では、交通事故、身の回りの生活の危険や地震などが原因で起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断のもとに安全に行動すること、環境を安全に整えること、怪我などの簡単な手当はすみやかに行う必要があることを理解し、けがなどの簡単な手当を行ってきた。また、心肺蘇生法実習では、心肺停止をした人を発見した時にどのような行動をとればよいのか基本的な行動をおさえた。具体的には「大きな声で助けを呼ぶこと」、「通報、AEDの手配」「胸骨圧迫」の行い方を知り、実践した。

(2) 思考力、判断力、表現力等

3年時では、健康な生活に関わることから課題を見つけ、健康な生活を目指す視点から、解決の方法を考え、それを伝える活動をしてきた。4年時では、体の発育・発達に関わることから課題を見つけ、体のよりよい発育・発達を目指す視点から、適切な方法を考え、それを伝える活動をしてきた。5年時では、けがの防止に関わる事象から課題を見付け、危険の予測や回避をしたり、けがを手当したりする方法を考え、それらを表現した。

(3) 学びに向かう力、人間性等

【意識調査】

(児童数 男子19名 女子15名 計34名 令和5年9月5日実施)

	はい	どちらかというとはい	どちらかというといえ	いいえ
1 浦和大里小学校でも命に関わる事件や事故は起こると思うか。	16	12	5	1
2 命を救うことに興味がある。	9	18	6	1
3 心肺蘇生法の授業があった方がよいと思うか。	23	8	3	0
4 身近な人を助けるためにどんな対応をすればよいのかが分かる。	18	13	8	0
5 倒れている人に声を掛けることができる。	15	12	5	2
6 大声でまわりに助けを呼ぶことができる。	12	9	10	3
7 自分が助ける人なら、他の人に119番通報とAEDの指示ができる。	7	13	9	5
8 呼吸の確認ができる。	10	11	10	3
9 胸骨圧迫ができる。	4	14	10	5
10 AEDを聞いたことがある。知っている。	34			0
11 今までにAEDを見たことがある。	33			1
12 浦和大里小学校のAEDの場所が分かる。	27			6
13 学校以外にどこにAEDがあるか知っている。	11			23
14 AEDの目的や機能を知っている。	20	9	3	2
15 AEDの使い方を知っている。	11	6	8	9
16 AEDを使うことができる。	4	7	14	9

実態調査の結果から、心肺蘇生法の必要性は感じたり、AEDのことは知っていたりしている。5年次までの学習の成果が分かる。また、自分がいざ助けるとなった時に、何か助けなくてはならないという意識はもっているように感じる。しかし、他の人への指示や胸骨圧迫、AEDなどについてはできると思う児童がいる一方で、多くの児童が自信があるとは言いきれないような結果となった。5年時での1時間しかまだやっていないために圧倒的に経験が足りていないという理由だと思う。

また、本学級は、日頃から体育の授業に向けて肯定的な意見を発言する児童が多い。一方で、苦手と感じる児童もいる。どちらの児童にも共通していることはいろいろな運動を知りたい、できるようになりたいという思いが強く、進んで活動にチャレンジしているが多く見られることである。一方で怪我をした時には、そのままにしたり、どうしていいかわからずに教師に聞く児童もいたりする。本単元を通して、自分にできることは何かを考え、またその対処法を知り、大きなけがが起きた場合にすぐさまとりかかれるような児童を育てたい。

4 教師の指導観

(1) 知識及び技能

5年時で心肺蘇生法実習を経験した。しかし、経験段階でどのように行うか覚えていない児童も多いと考える。また、意識調査から自信がなかったり、やり方が分からなかったりする児童がいた。自分がどの程度できているか自分自身では見えにくいところもあると考える。そこでタブレット型学習用コンピュータを用いて自分の行い方を客観的に見ることによって、技能を図り自分もできているという自信を付けさせたい。

また、本時の学習の目的は「実習を通して、進んで取り組もうとすること」としている。胸骨圧迫やAEDの使い方について確実に技能を身に付けさせることを目標とはしていない。技能を高めることばかりを目当てにして、意欲がそがれては意味がないので、意欲的な気持ちになるような指導助言をしていきたい。

(2) 思考力、判断力、表現力等

意識調査から学校以外にどこにAEDがあるのかわからない児童も多くいた。4校時に行う地域の保健活動の学習の時に、AEDの主な設置場所の写真を見せることで身近な場所にもあることを知らせる。また、どんな場所に多くAEDが設置されているのか、どんなところにあったら市民は助かるのか考えられるような指導をしていく。

本学級は普段の体育の学習でもいろいろな運動を知りたい、できるようになりたいという思いが

強く、進んで活動にチャレンジしているが多く見られているため、本単元でも「なぜ」という視点をもって指導していきたい。日常の想定される場面で保健的な知識を生かしながら、判断力を養い、それを表現できるような授業づくりをしたい。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

意識調査の結果から5年次までの学習の成果として救急救命への意識や、事故が起きた時に何をすればよいかなどは分かる様子が見られる。一方で、胸骨圧迫やAEDの使い方については自信をもてなかったり、どう行ったらよいか分からなかったりする児童がいた。年齢の近い中学生から教えてもらうことで「自分にもできるかもしれない」と行い方に自信をもてるようにしたい。また、自分たちの身近にも起きうることもかもしれないという意識を高めるために、救命の意識を高める導入の工夫をしたり、中学生に実際に知識・技能を身に付けたことで分かったことなどをインタビューして理解を深めさせたりしたい。

5 学校課題研究との関わり

研究主題	9年間を見通した安全教育の推進 ～自助・共助の力を育むために～
-------------	------------------------------------

【視点①】 安全教育の系統性を意識した授業づくり

手立て① 系統性をふまえた学習指導の実践

5年時では、人が倒れていたときの行動を知ること、中学生では心肺蘇生法の知識と技能の定着を図ること目標にしている。そのため6年時では、一次救命措置の内容（胸骨圧迫）に比重をおくことで、共助の意識を高められるようにする。

手立て② 実践的な技能が身に付くICTの活用

タブレット型コンピュータを使うことで自分の動きを客観的に捉えることができる。また、2画面同時再生機能を使う。手本となる正しい姿勢と自分の姿勢の似ているところと違っているところについて比較できたり、1回目と2回目の自分を比較できたりする。また、前向きか横向きかによっての見方も変えられる。このような比較をすることで児童が意欲的になったり自信がついたりする。

手立て③ 効果的な資料提示による児童の意欲付け

本時の学習内容の意識をより高めるために、効果的な資料内容と提示のタイミングを工夫する。

【視点③】 中学生・中学校教員との連携

手立て④ 中学生をロールモデルにした効果的な学習定着

年齢も居住も近い中学生をロールモデルにすることで、自分の目当てを持ちやすくなる。また、中学生から評価をもらうことで自信をつけて行動することができる。

6 単元の目標

- (1) 病気の起こり方、病原体が主な要因となって起こる病気の予防、生活行動が主な要因となって起こる病気の予防、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、地域の様々な保健活動の取組について、理解することができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 病気の予防について、健康や安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組むことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

7 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<p>①病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起こることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>②病原体主な原因となって起こる病気の予防には病原体の発生源をなくしたり、移る道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防ぐことや体の抵抗力を高めておくことが必要であることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>③生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、全身を使った運動を日常的に行うこと、糖分、脂肪分、塩分などを摂り過ぎる偏った食事や間食を避けたりすることなど、健康によい生活習慣を身に付ける必要があることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>④生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、口腔の衛生を保ったりすることなど、健康によい生活習慣を身に付ける必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑤喫煙は、呼吸や心臓にははたらきに対する負担などに影響がすぐに現れることや受動喫煙により周囲の人の健康にも影響を及ぼすこと、飲酒は、判断力が鈍る、呼吸や心臓が苦しくなるなどの影響がすぐに現れるについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>⑥薬物乱用は、一回の乱用でも死に至ることがあり、乱用を続けると止められなくなり、心身の健康に深刻な影響を及ぼすことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑦人々の病気を予防するために、保健所や保健センターなどでは、健康な生活習慣に関わる情報や予防接種などの活動が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑧胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）使用などの心肺蘇生法について理解するとともに、簡単な手当の技能を身に付けている。</p>	<p>①病気の予防について、病気の起こり方に関わる事象から課題を見付けている。</p> <p>②病原体が主な原因となって起こる病気の予防について、学習したことを活用して、予防の方法を考えたり、適切な方法を選んだりしている。</p> <p>③生活行動が主な要因となって起こる病気の予防について、学習したことを自分の生活と比べたり、関連付けたりするなどして適切な方法を考えている。</p> <p>④喫煙・飲酒が健康を損なう原因となることについて、なぜ健康への被害があるか、考えたことを学習カードに書いたり、友達に説明したりしている。</p>	<p>①病気の予防について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習や、教科書や資料を調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②大きなけがの場合の対処法について、実習を通して、進んで取り組もうとしている。</p>

8 単元の計画

時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1	病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こることについて、理解することができるようにするとともに、病気の起こり方に関わる事象から課題を見付けることができるようにする。	①	①		・ワークシート ・発言
2	病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること	②	②		・ワークシート

	について、理解することができるようにするとともに、学習したことを活用して、予防の方法を考えたり、適切な方法を選んだりすることができるようにする。				・発言
3	生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、心臓や脳の血管が硬くなったり詰まったりする病気があることや、その予防には、望ましい生活習慣を身に付ける必要があることについて理解することができるようにする。	③	③		・ワークシート ・発言
4	地域では、保健に関わるさまざまな活動が行われていることについて、理解することができるようにする。	⑦		①	・ワークシート ・発言
5	大きなけがの場合の対処をすることができるようにするとともに、AED・心肺蘇生法について、実際の場면을想定した実習を通して理解したことを、言ったり、書いたりすることができるようにする。 大きなけがの場合の対処法について、実習を通して、進んで取り組むことができるようにする。	⑧		②	・ワークシート ・発言
6	喫煙、飲酒などの行為は、健康を損なう原因となることについて、なぜ健康への影響があるか、考えたことを学習カードに書いたり、友達に説明したりすることができるようにする。	⑤	④		
7	喫煙、飲酒などの行為は、健康を損なう原因となることについて、理解することができるようにする。	⑤			
8	薬物乱用は、健康を損なう原因となることについて、理解することができるようにする。	⑥		①	

9 本時の学習と指導 (5/8時)

(1) 本時の目標

- 胸骨圧迫、AED (自動体外式除細動器) 使用などの心肺蘇生法について理解するとともに、簡単な手当の技能を身に付けている。 【知識及び技能】
- 大きなけがの場合の対処法について、実習に進んで取り組み、実習において理解したことを言ったり、書いたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】

(2) 準備

あっぱくん、AED、ワークシート、掲示資料、映像資料、スクリーン ASUKA モデル
タブレット型学習用コンピュータ

(3) 展開

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点 (指導○ 評価規準◆ 研究の視点☆)	資料・用具 評価方法
導入 12分	<p>1 前時で学習した地域の様々な保健活動の取組について想起する。</p> <p>2 もし誰かが突然倒れたらどうするか考える。 心臓突然死について知る。</p> <p>3 大きなけが (心肺停止) をした人を発見した時の行動について話し合う。</p> <p>4 どのような対応をすればよいか知る。 ・大きな声で助けを呼ぶ。</p>	<p>○学校や地域には保健にかかわるさまざまな活動が行われていることを想起させる。(T1)</p> <p>○本時では、次の状況について考えさせる。(T1)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・放課後、公園で倒れている人を発見した。 ・声を掛けたが、反応がない。</p> </div> <p>○子どもたちから出た意見を整理していき必要な対応をまとめる。(T1)</p> <p>○反応 (意識) や普段通りの呼吸の確認がよく分からない場合は、次の行動に進んでよいことを知らせる。(T1)</p> <p>○中学生の手本のよかったところを見つけさせる。(T1)</p>	・掲示資料

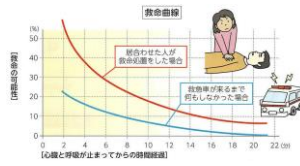
	<ul style="list-style-type: none"> ・通報・AED 手配 ・胸骨圧迫 <p>中学生が手本を見せる。</p> <p>5 全員で声を出して確認する。(傷病者発見から AED の手配まで)</p>	<p>○校外においても、すぐに大きな声で助けを求めることが救命の第 1 歩であり、大切であることを伝える。(T 1)</p> <p>○中学生の手本を参考に、以下のセリフを大きな声で堂々と言えるようにさせる。(T 1)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(「周囲は安全です。」)</p> <p>①「反応の確認をします。」</p> <p>②「人が倒れています！誰か来てください！」</p> <p>③「あなた 1 1 9 番お願いします。」</p> <p>「あなた AED お願いします。」</p> </div>	
展開 25 分	6 本時の課題を確認する。	○資料を通して通報してから救急車が到着するまでに、自分にできる命を救う行動とは何かを考えさせる。(T 1)	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示資料 ・ワークシート ・ASUKA モデル ・あっぱくん ・行動観察 ・タブレット型学習用コンピュータ
	7 中学生の手本を参考に胸骨圧迫の手順について確認し、練習する。	<p>○中学生の手本から自分の目当てを決めさせる。(T 1)</p> <p>○事故発生時を想定し、緊迫した雰囲気の中で、緊急時の対処法について体験させるようにさせる。(T 1)</p> <p>○中学生の手本と、手元のチェックリストをもとに正しい動きを覚えさせる。(T 2)</p> <p>◆胸骨圧迫、AED (自動体外式除細動器) 使用などの心肺蘇生法について理解するとともに、簡単な手当の技能を身に付けている。【知・技】</p> <p>○2 画面同時再生機能を使って自分の動作を客観的に見ることのできるくらいできているのか意欲をもたせる。(T 1)</p> <p>○中学生からもらったチェックリストや 2 画面同時再生機能での反省をもとに最低 2 回は胸骨圧迫に取り組ませる。(T 1)</p> <p>◆胸骨圧迫の練習に進んで取り組もうとしている。【態】</p>	
	8 AED の使い方を知る。	○AED の目的や機能、地域の主な AED の設置場所について確認させる。(T 1、T 2)	
整理 8 分	9 本時の学習のまとめをする。	○児童のふりかえりの言葉から本時の学習のまとめをする。(T 1)	<ul style="list-style-type: none"> ・Forms アンケート
	<ul style="list-style-type: none"> ・分かったこと ・学んだことをどうしたらできそうか。 	<p>○1人でできることは限られている。まずは周囲の助けを呼ぶことが大事であることを伝える。(T 1)</p> <p>○実際に発生したときには、周囲の状況をよく確認し、自助を優先に、落ち着いて共助の対処をすることが大切であることを知らせる。(T 1)</p> <p>○中学生からの話を聞くことで自助、共助の気持ちを高めさせる。(T 2)</p> <p>◆大きなけがの場合の対処をすることができ、AED・心肺蘇生法について、理解したことを、言ったり、書いたりしている。【知・技】</p>	

10 板書計画

放課後、みどり公園で倒れている人を発見しました。近寄ってみると動きが何もないように見えます。

- (「周囲は安全です。」)
- ① 「反応の確認をします」。
 - ② 「人がたおれています！だれか来ててください！」。
 - ③ 「あなた119番お願いします！」
「あなたAEDをお願いします！」。

消防隊が駆けつけるまでに、どのような行動をとればよいのだから



AEDとは…心臓に電気ショックを与えて、働きを正常に戻す機械。

ひざを立て、肩幅にひろげる



ひじをばす



肩から手に一直線

